

A—59 僻地帯における学童の健康状態と学校給食の効果について
岩手県玉山村藪川小学校児童を中心として

岩手大 鷹齋 テル

1. 国は東北・北海道の3級地以上の辺地校に対して完全給食を行なうことになり、4億円の特別予算を計上した。本県には3級以上の辺地校が25市町村に82校あり、その学童のうち昼食の欠食児童が2000人をこえ、全体の18%にもおよんでいる。しかもその食事内容はヒエ食が中心で、蛋白質・ビタミンA・脂肪・カルシウム・ビタミンB₂の不足が著しく、体力や学力の低下に影響している現状である。そこでわれわれは早くから、へき地学童の栄養と健康状態について調査し、その対策について検討してきたので、報告する。

2. 昭和35年から岩手のへき地校の学童の食事調査をべんとうの内容を中心にして調査し、健康状態は体位・毛髪中シスチン含量・暗調応テストの結果から良否を判

定した。その後藪川小学校学童を対象にビタミンやミルクを負荷して、その成果を観察し、へき地学童の栄養改善の方法を案出した。

3. ビタミンとミルクを与えて、その効果を見たが、暗調応能力、シスチン含量の面でいく分かの上昇を見たが、正常値まではいたらなかった。そのほか完全給食が実施されているので、暗調応テストを行なってその成果を報告する。